

霞堤



豊川の堤防は所々切れてなくなっており、洪水時にはここから水が溢れ出します。溢れた水は田畑などの遊水地へたまりますが、このようにすることで下流地域の浸水被害を抑える役割があります。この切れている堤防から溢れた水が集落へ入り込まないように、河川堤防とは別に内陸に「請堤」という堤防が作られました。この切れている堤防と請堤による堤防は「霞堤」と呼ばれており、現在でも見られます。また、霞堤は洪水を防ぐだけでなく遊水地となっている田畑に土と栄養を供給する役目もあります。

霞堤は江戸時代から築き上げられたといわれています。昭和 30 年には 9 箇所ありましたが現在は豊川放水路が完成したことで 4 箇所まで減少しています。